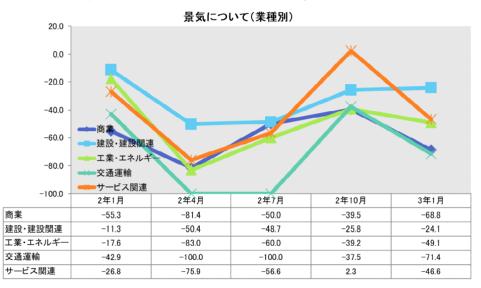
大分商工会議所 第79回景気動向アンケート調査結果(令和3年1月調査分)

調査対象: 当所会員212事業所へ経営指導員が原則聴き取りで調査

D I 値: ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値。

I. 景気について

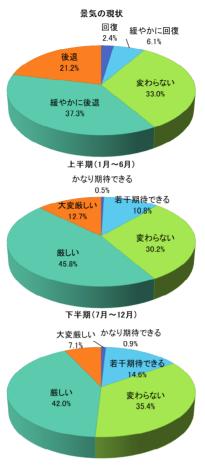
- ・ 令和 2 年 10 月~12 月の景況 DI は、前期▲21.8 から 28.2 ポイント下降の▲50.0 となった。なお、前年同期比(令和元年 10 月~12 月)は 18.7 ポイントの下降。
- ・ 「回復」(0.5%→2.4%)、「緩やかに回復」(19.1%→6.1%)、「変わらない」(39.0%→33.0%)、「緩やかに後退」(29.8%→37.3%)、「後退」(11.6%→21.2%)。
- 業種別DIでは、「建設・建設関連」以外は下降。
- ・ 今年の予想については、上半期が▲47.2、下半期が▲33.6 と当期実績は上回ってはいるものの、いずれも大幅なマイナス域となった。

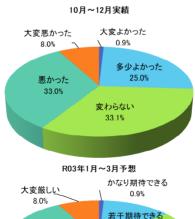


Ⅱ. 売上高について

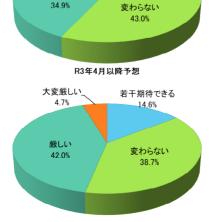
- ・ 令和2年10月~12月の売上実績DIは、前期▲31.6から16.5ポイント上昇の▲15.1 となった。なお、前年同期比(令和元年10月~12月)は27.2ポイントの下降。
- 業種別の売上実績 DI では、「交通運輸」以外は上昇。
- 売上予想DI について、来期(令和3年1月~3月)は▲28.8、令和3年4月以降は
 ▲32.1と依然として厳しい見通し。
- ・ 来期(令和3年1月~3月)の売上予想DIについては、「建設・建設関連」以外は 下降。







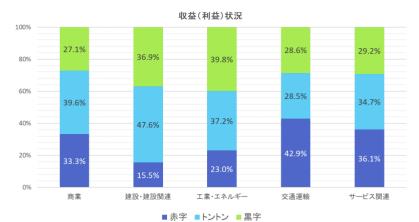
13 2%



齢しい

Ⅲ. 収益(利益) 状況について

- ・ 「黒字」(21.4%→31.1%)、「収支トントン」(47.9% →38.7%)、「赤字」(30.7%→30.2%)となり、収益状 況は改善。
- 業種別では、「サービス関連」のみ黒字割合が減少 (34.9%→29.2%)。



これからの臨時・派遣従業員の利用について

Ⅳ. 雇用状況について

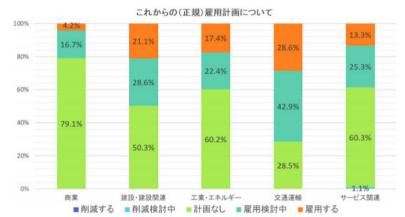
(1) これからの臨時・派遣従業員等の利用について

· 「拡大」(4.1%→4.2%→4.7%)、「現状維持」(87.1%→86.0%→87.8%)、「縮小」(8.8%→9.8%→7.5%)。



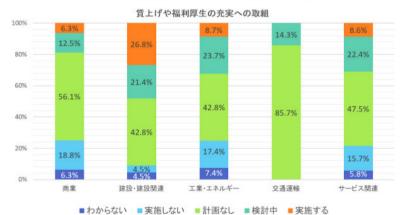
(2) これからの(正規) 雇用計画について

- ・ 正規雇用は「雇用する」「検討中」を合わせて35.4% で、前期36.3%から0.9ポイント下降。
- ・ 業種別では、「商業」「交通運輸」「サービス関連」 で「雇用する」「検討中」の合計割合が増加してい る。



(3) 賃上げなど雇用報酬や福利厚生の充実

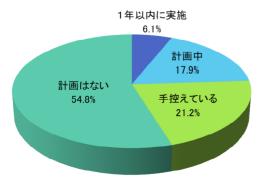
- 「実施する」「検討中」を合わせて27.4%で、前期20.4%から7.0ポイント上昇。
- 業種別では、全業種で「実施する」「検討中」が増加。



設備投資について

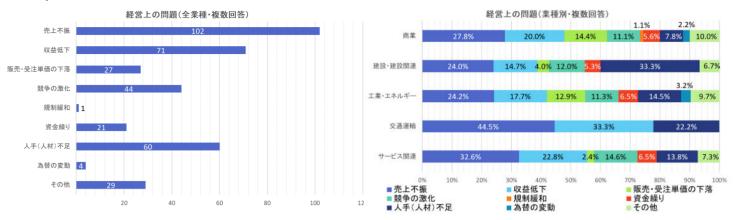
V. 設備投資について

・ 「1年以内に実施」「計画中」(25.8%→30.2%→24.0%)、「手控えている」 「計画はない」(74.2%→69.8%→76.0%) となり、投資意欲は低下。



VI. 経営上の問題について(複数回答)

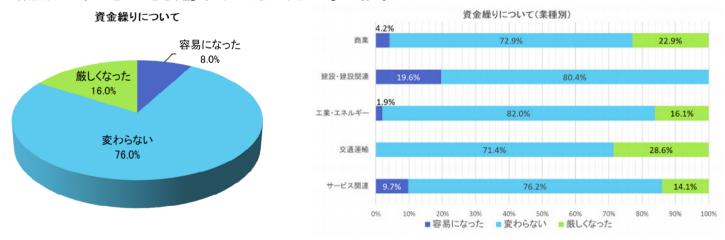
- 前期に引き続き「売上不振」「収益低下」「人手(人材)不足」の順となった。
- ・ 業種別では、「建設・建設関連」で「人手(人材)不足」、それ以外は「売上不振」と回答した事業所の割合が多くなっている。



Ⅷ. 資金繰りについて

(1) 現状の資金繰り

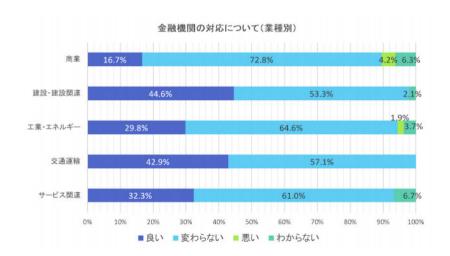
- ・ 「容易になった」が前期 7.9%から 0.1 ポイント上昇の 8.0%、「厳しくなった」は前期 16.7%から 0.7 ポイント下降の 16.0% となっており、資金繰りは大きな変化はなし。
- ・ 業種別では、「建設・建設関連」以外で「厳しくなった」が増加。



(2) 金融機関の対応

- ・ 「良い」が前期 28.4%から 1.8 ポイント上昇の 30.2%、「悪い」が前期 0.9%から 0.5 ポイント上昇の 1.4%。
- ・ 業種別では、「商業」以外は「良い」が増加。

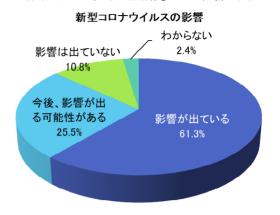


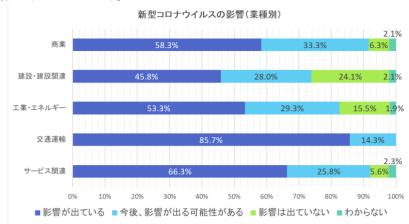


※新型コロナウイルスの感染拡大による企業活動への影響等についての付帯調査

▼ 新型コロナウイルスの感染拡大による企業活動への影響

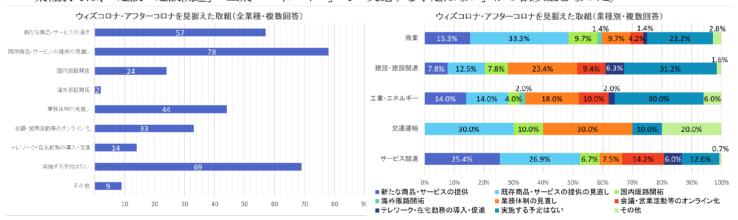
- ・ 「影響が出ている」「今後、影響が出る可能性がある」を合わせて86.8%で、前期89.3%から減少。
- 業種別では、「交通運輸」で「影響が出ている」が増加(75.0%→85.7%)。





IX. ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた取組の実施について

- ・ 「既存商品・サービスの提供の見直し」「実施する予定はない」「新たな商品・サービスの提供」「業務体制の見直し」の順となった。
- 業種別では、「建設・建設関連」「工業・エネルギー」で「実施する予定はない」が3割以上となった。



まとめ

景況感について、令和2年10月~12月の景況 DI は、前期▲21.8から28.2ポイント下降の▲50.0となった。また、業種別 DI では、「建設・建設関連」以外は下降した。

売上高について、令和2年10月~12月の実績 DI は、前期 \triangle 31.6から16.5ポイント上昇の \triangle 15.1となった。また、業種別では「交通運輸」以外は上昇した。なお、予想 DI については、来期(令和3年1月~3月)は \triangle 28.8、令和3年4月以降は \triangle 32.1となっており、依然として厳しい見通しとなっている。

景況 DI は、前期まで2期連続で回復していたが、今期は再び悪化する結果となった。ヒアリングする中でも、飲食業では忘年会の予約キャンセルが多かったなど、書き入れ時であるにも関わらず、悲痛な声が聞こえてきた。また他の都府県における緊急事態宣言の再発令などもあり、全体的に需要回復を見通せない中、中小企業の景況感には弱さが見られる。